

## CLC からしだね書店便り

November  
2023

11



## \*今月のご案内\*

- ① 「ガザの子どもたちの『いのち』のものがたりを焚き火を囲んで  
ものがたりたい」 CLC からしだね書店 店長
- ② おすすめのディポジション本の紹介  
いのちのことは社発行のリーフレットより
- ③ 読書感想本 『仏教の基礎知識』

CLCからしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、  
その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供  
しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、  
好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、  
つながる「対話」の場を提供します。

CLCからしだね書店 & 本屋

営業時間 11:00-17:00 (※祝日も営業)

定休日 日曜日と年末年始 (※祝日も営業)

休 日 毎月第3木曜日は書店のみ営業

第11回 クリスマスおめでとう

すべての人が神さまを知るように  
神さまに抱きしめられていることを  
知るように  
ずっと神さまは語りつづけてきた  
神さまが語り  
アブラハムに語らせ  
モーセに語らせ  
ダビデに語らせ  
預言者たちに語らせ  
そして ついに  
そして ついに  
そして ついに  
神さま この世界に来ることにした  
人となって  
かんたんに傷つけることのできる  
小さな赤ん坊になって  
すべての人が神さまを知るように  
神さまに抱きしめられていることを  
知るように  
クリスマスおめでとう



おとなのための 神の物語  
子どもだったみなさんへ

- 1 教父たち（教会の初期の指導者たち）にとつて、キリストの受肉は福音の中心でした。十字架よりも強調されることがあるほどに。私たちと同じ弱さを持ちながら、父なる神さまに従い抜いたイエスさまの地上の生涯。聖霊によってそのような生きる道を私たちに開きました。
- 2 それまでも私たちのすべてを知っておられた神さま。でもいわば、人として内側から私たちを知ってくださいました。その喜びを、その悲しみを、その痛みを、ずっとずっとそっすいたいと願ってくださいましたすえについに。
- 3 主イエスの手を感ずいた人びとがいます。その声を聞いた人びとが。その息を吹きかけられ、そのぬくもりにいやされた人が。神は神であることに固執しなかった。
- 3 神が人となりました。神をやめて人になったのではなく、神が人となった。それによって神の定義は変わりました。神とは人となった神。愛ゆえに人となってしまった神。

和紙ちぎり絵：森住 ゆき もりずみ ゆき  
群馬県生まれ。和紙ちぎり絵作家。著書に画文集「アメイジング・グレイス」「ぶどうの気持ち」「日めくり片隅の花でも」(いのちのこば社)、「思いを伝える和紙のちぎり絵春夏秋冬」(日貿出版社)がある。埼玉県在住。

大頭 眞一 おおず しんいち  
1960年神戸市生まれ。英国マンチェスターのナザレン・セオロジカル・カレッジ(BA、MA)と関西聖書神学校で学ぶ。日本イエス・キリスト教団香登教会伝道師・副牧師を経て、現在、京都府の京都信愛教会と明野キリスト教会の牧師、関西聖書神学校講師、焚き火塾代表。ドリームパーティー発起人。

# ガザの子どもたちの『いのちのものがたり』を焚き火を囲んでものがたりたい

CLCからしだね書店 店長 坂岡恵

ウクライナでの戦禍が続く中、今度はパレスチナのガザがたいへんなことになっていきます。ハマスのテロ行爲と、イスラエルの報復一、その結果として、多くの市民、子どもたちが殺されました。

今まで、中東問題にあまり関心のなかった人たちも、「なぜこんなことが起きているのだろうか?」そもそも、なぜ、イスラエルとアラブは喧嘩ばかりしているの?」と、頭の中を疑問符だらけにしています。じつは、私もその一人です。

イスラエル人タビデが、ペリシテ人コリアテと戦ったという話は有名ですが、「パレスチナ」の語源が、「ペリシテ人の土地」という意味だと、このたび初めて知りました。また、ナチスのホロコーストという難難を経て、1948年にイスラエルが建国された経緯についてもほとんど、いや全然知りませんでした。それで、これではいけないと、新聞、テレビ、インターネット、本などをみて、なぜこんなことが起きているのか、その理由を知りたいと努力したのですが、ますますわけがわからなくなりました。

「イスラエルのガザへの爆撃は、正当な自衛行爲。ここです

いて、どちらが正しい、どちらが間違っている」と主張し合っているよりも、テレビに映るガザの子どもたちの泣き顔におろおろし、血を流す子どもたちの傍らに自分を置いて、そこからどんな景色が見えるかを知りたいと思っ人たちです。

暴力を受ければ心と体が痛み、恐ろしいもののおののき、大事なものを失えば悲しくなり、理不尽な扱いを受ければ怒り、誰かに親切にしてもらえば喜び、おもしろいものを見て笑う。私たちは、そんなあたりまえのこころを持った「人」です。その点だけは、世界の反対側にいる誰かと私と、何も変わることはありません。そのつながりの中に身を置いて、世界の反対側で泣いている子どもの気持ちと自分の気持ちを重ね合わせる。そうすれば、何を優先させるべきか、答えは見えてきます。

だから、今回のガザでの出来事を、「聖書的な正しい解釈は、こころです」「イスラエルの歴史と照らし合わせて、キリスト教徒はこうすべきです」という人がいても、私は、あまり信用していません。そんなことよりも、戦禍のなかにあるガザの、血を流して泣いている子どもたちの傍らにおられるイエスさまを、ちゃんと見つけられるかどうかの方が、ずっと大事なことです。だと思います。

「いよものための神のものがたり」も、あと一回で終了します。「語る人」として、すてきな文を寄せてくださった大頭眞一牧師

かりハマスに報復しておかないとイスラエルは滅亡する」と言う人もいれば、「イスラエルはハマス以上にひどいことをやっている」と言う人もいます。ハマスについても、「ただのイスラムの過激なテロ集団だ」という人もいれば、「二心、選挙によって選ばれた政治的なグループだ」と言う人もいます。今、ガザで起きていることは、「アブラハムの時代まで遡らないと理解できない」と言う人、「この戦争は宗教が絡んでいるからやっかい」と言う人、その「やっかいな」宗教の当事者たちは、それぞれが「これは神の戦い」であり、「霊的な戦い」であり、「正義の戦い」なのだと言います。一方、極めてクールに、「宗教戦争だと勘違いしがちだが、じつは単なる領土の奪い合い」という人もいます。こうして、どの宗教的グループに属しているか、どの政治的グループに属しているか、どの地域のどの国に暮らしているかなどによって、あるいはどういう歴史や文化的背景の中で生きてきたかによって、じつに様々な見解があり、大きく考え方が違うのだ、と、最初は思いました。

ですが、いや待てよ、と思いついたからです。

その人たちは、人間の根っこに立ち戻って考えようとしています。所属するグループの違い、歴史理解の違い、文化の違いに基づ

は、「ものがたり」であることをとても大切にしておられます。「ものがたり」は、おとぎ話とは違います。現実はこの世界に展開していくものがたりです。歴史の教科書をなぞるように、箇条書きに羅列した出来事を追って、それが聖書の預言とどう合致していくのに関心を持つということでもありません。神さまのこころが、小さな一人ひとりの人間のこころの動きを包み込むようにして、ちゃんと大切にされながら進んでいくものがないんだと思います。

神のものがたりの中には、ガザで暮らし、死んでいった子どもたちのものがあります。その子たちがどんなに怖かったか、どんなに痛かったか、どんなに寂しかったか、そして家族のあたたかな腕に抱かれ、可愛がられて、どんなに幸せだったか…。

ガザにも、ウクライナにも、無数の小さな子どもたちのものがたりが確かにあったことを、そしてそのものがたりを神さまがここのほかに愛しておられたということを、「焚き火を囲んで」ほつぽつと語り合える私たちでいたい、私はそう思っています。イエスさまが、おさなごとして、この世に生まれてくださったものがたりを、キリスト教徒たちが大切に語り、語りつづけていこう。

## 『焚き火を囲んで聴くキリスト教入門』

by 大頭眞一と焚き火を囲む仲間たち  
by 大頭眞一と焚き火を囲む仲間たち  
1,300円+税





# デポーション本のすすめ

月刊デポーション誌 *mianna* (2023年12月号をもって休刊) を、長きにわたり刊行し続けられたことを主に感謝いたします。新たな年、2024年からの聖書日課のガイドとなるべく、また、皆さまが培われて来られた日々の読書習慣のバトンを繋げるために、選りすぐりのデポーション本をご紹介します。

**新刊**

使徒の働き 365の黙想と祈り  
森原明 著  
主イエスが始めた働きが聖書の書きによって展開されていくさまを、少しずつ、じっくりと読む。連続と受け継がれてきたこの働きを継承する私たちが、この書からどのようなメッセージを読み取ることができるか——充実したデポーションを導く着想書。  
B6判 168頁 定価1,760円(税込)

中巻ページ  
試し読み▼

366日デポーション  
弱さと闇を照らす光 神はあなたを見捨てない  
中村隆 著  
百万人の福音の人気連載の単行本化。弱さと闇をもつ人間を愛してやまない神の息吹を感じるショートメッセージ。「現代思想の畏」「心の闇と弱さ」「三位一体なる超越した神様」「信仰～主と共に歩む人生～」など。  
A6判 392頁 定価1,760円(税込)

中巻ページ  
試し読み▼

わたしは決してあなたをひとりにしない  
主イエスの声に耳を澄ます 366日  
サラ・ヤング 著 佐藤知津子 訳  
主イエスが今、あなたに語りかける——聖書を神からの直接のことばとして語り直したユニークな聖書日課。数多くの人々に慰めと励ましを与え、癒しを与えてきた世界的ベストセラー！  
四六判 384頁 定価2,200円(税込)  
サラ・ヤング新刊「祈り」の聖書日課。出版準備中！

中巻ページ  
試し読み▼

主と祈り 主と生きる 366日  
ニック・ハリソン 著 佐藤知津子 訳  
アウグスティヌス、ルター、カルヴァン、ウェスレー、パニヤン、バスケル、ニュートン、リンカーン、ミュラー、ムーディー、エリック・リデル……神との親しい関係を築いた180名の信仰者の言葉や逸話を紹介しながら、真の祈りについて学ぶ充実の聖書日課。  
四六判 上製 576頁 定価円(税込)

中巻ページ  
試し読み▼

Let's be Friends.  
神とつながる 366日  
hi-ba 高校生聖書伝道協会 編  
普段から高校生たちとつながっているhi-ba(高校生聖書伝道協会)のスタッフによる日々の黙想と送るこたばのショートメッセージ。文庫本サイズで持ち運びしやすい！ティーンズの信仰の費いにぴったりの一冊。  
A6判 388頁 定価1,430円(税込)  
2024年からのスタートに向けて、第2弾が出版準備中！

中巻ページ  
試し読み▼

おはよう！神さま  
365日の子どもデポーション  
マックス・ルグード 著 中嶋典子 訳  
『たいせつなきみ』のルグードによる、小学生のための365日のデポーションブック。みことばからのショートメッセージと、恵みによって成長するための励ましの言葉が添えられている。小学校中学年以上向け。大人や家庭のデポーションブックとしてもおすすめ。  
綴ルビ A5変型判 392頁 定価2,970円(税込)

中巻ページ  
試し読み▼

教えて神さまのこと  
366日のデポーションなのにキリスト教百科!?  
キャスリン・スラッターリー 著 佐藤知津子 訳  
神さま、イエスさまのこと、信仰生活や教理、キリスト教史や信仰偉人伝、教会暦などについて、Q&A形式で解説。みことばとメッセージとお祈りで霊的な養いを受けながら知識が増やせる一石二鳥の聖書日課。  
小学校高学年以上向け。  
綴ルビ B6判 392頁 定価2,420円(税込)

中巻ページ  
試し読み▼

デポーションライフのすすめ

クリスチャンの信仰生活を豊かにし、信仰の成長を図るためには、日々、みことばにふれ、祈りの時間をもつことが重要であることはいまでもありません。しかし、聖書を読み、祈ることは大切なことだとは知りつつも、忙しさの中でおざなりになるということは、決して珍しいことではありません。キリスト教界では日々の生活の中で時間を取り分けて聖書を読み、祈りに専念することを、デポーションや、メディテーション、静思の時などと呼んでいます。毎日読む箇所が設けられているデポーション本は、その習慣を続けるための助けとなります。ぜひあなたに合った一冊を見つけ、充実したデポーションライフを持ちましょう。

デポーションのプログラム例 《日々の聖書日課、専註礼拝、ホフルーフォー》

- 1) 黙想って、思いを主に向けましょう。
- 2) 賛美しましょう。
- 3) 今日の箇所を読みましょう。
- 4) 黙想しましょう。
- 5) 分かち合いましょう。
- 6) 祈りましょう。



# 平和をもたらす「空」と「無我」の知恵

『仏教の基礎知識』  
(水野弘元 春秋社 1,870円税込)



最近仏教に興味があつて、色々と本を読んでいます。たまたま書店で手に取った、水野弘元『仏教の基礎知識』に教えられるところがあつたので、皆さんと共有したいと思ひます。

本書は、「すべての仏教に共通する基本的なものを、初歩の人に平易に説くこと」(「はしがき」)を目的として書かれた本です。

本書によると、仏教とは、「人間が社会生活をなすにあつて、『人生はいかにあるか』ということ<sup>(1)</sup>を正しく知り、そこから『人間はいかにあるべきか』という社会・人生の理想を見出し、その理想に向かつて進んでいく<sup>(2)</sup>ことを説くもの」(同書三頁)です。つまり、「正しい認識を持ち、「正しい生き方」を実践するための知恵や教え」ということです。そうであるならば、いかなる信仰を持っていても(あるいは信仰を持っていなくても)、「良く生きたい」と望むならば、仏教はすべての人の助けとなるはず<sup>(3)</sup>です。この点か、

うか。

仏教においては、永遠不変の実体のようなものは認められません。すべてのものは生滅し、変化していきます(「諸行無常」「諸法無我」)。さらに我々人間が認識できるのは、この世界で具体的に起こっている現象のみであり、現象の奥に存在する形而上学的な本体などを議論することに意味はないとします(「無記」)。

このような認識から、「空」あるいは「無我」という仏教の基本的な態度が導かれます。すべてのものは生滅・変化する以上、絶対的な原理のようなものを建て、それに固執することはできません。したがつて、あらゆる考え方に對して自由な、是々非々の態度で臨むこととなります。言い換えると、あらゆるイデオロギーに對する執着から離れるのが、「空」「無我」の態度なのです。

さらに仏教の空・無我という態度は、空・無我の態度それ自体に對するこだわりさえ向けられ、絶えず自分自身を相対化し、更新していきます。

法を簡単にいうならば、それは仏教の規範としての真・善・聖などの理念であり、またこの理念

いかなる人間にも通じる仏教の普遍性であり、仏教が「人間学」と言われるゆえんなのでしよう。

ブツダは「すべては苦である」との認識から出発しました(「一切皆苦」)。そして苦が起る原因をさかのぼり、その根源に「無明」があることを指摘します(「十二支縁起」)。「無明」とは、「社会・人生の理想を達成するための正しい世界観や人生観がないこと」(同書百六十九頁)、つまり人間や世界に對する根本的な認識の誤りです。

あるいは「愛」が苦悩の原因であるとも言います(「集諦」)が、これは「渴愛」とも訳される言葉で、誤つた認識に基づく盲目的な愛を指しますから、苦悩の原因としての「愛」の中にはやはり「無明」が含まれていると言えるでしょう。(同書百九十頁)

そのような無明から目覚め、この世の実態を正しく把握することから、悟りへの道が始まります。では仏教における「正しい世界観・人間観」とはどのようなものなのでしょう

を活用する空の態度をもふくむものである。しかしこの理想や理念としての法でも、これに執着するならば直ちに固定化して障碍となるから、これも捨てなければならぬ。(五十頁、傍線引用者)

その空が固定してゐる時には、さらに「空もまた空」として空をも否定し、それが固定化・形式化すればそれもまた否定するのである。つまり固定化・形式化して生命を失ふことにこれを打破して、生命ある流動的な空となすこと…(四十九頁、傍線引用者)

このように、仏教の無我・空の態度は、信仰やイデオロギーの固定化・形骸化(それは「信仰の所有」「信仰の偶像化」「法への執着」と言えます)を破壊し、絶えず新たに作り変える機能を内蔵しているのです。これはいかなる信仰を持つ人にとつても、良く生きるための有益な知恵となるのではないでしょうか。

この空・無我の態度は、聖書の言う偶像崇拜の禁止という教えに似ています。人は根源的な不安におそわれた時、

あっ  
とるり!!!

この冬  
おススメメニューの  
紹介です



チキンアップルドリア 850円

期間限定 2023 11/1 ~ 2024 2/29

チキンライスの上に  
ベシャメルソース、リンゴ、  
チーズをかけた大人気の一品

チュロスカップ 400円



年末年始の  
営業のご案内

2023年12月25日(月)までは、カフェ・書店ともに通常営業  
12月26日(火)~28日(木)書店のみ営業(カフェは休業)

2023年12月29日(金)~2024年1月3日(水) 冬季休業

2024年1月4日(月)書店のみ営業(カフェは休業)  
1月5日(月)~カフェ・書店ともに通常営業

目に見える何か、あるいは感じられる何か(現象に過ぎないもの)を、絶対的で永遠な、神のようなものとしてあがめ、所有することで、心の安定を得ようとしています。ちょうどイスラエルの民が金の子牛をあがめたように。  
こうした偶像の中で、もしかすると最も危険で、争いを生み出しやすいのが、「自分の正しさ」という偶像かもしれません。ブッダはこの偶像の虚しさを十分に知っていました。

ブッダの時代のインドでは、当時支配的だったバラモン教の墮落が見られ、それに対して様々な新思想が生み出されていました。ブッダもまたそうした新思想家のうちの一人だったのです。様々な思想家が自分の正しさを主張し合う中で、ブッダは空の立場に立ち、自分の正しさに固執せず、論争することはありませんでした(「無諍(むじょう)」。ブッダは言います)。

自分の道を強く主張する者は、  
どうして他を愚であると思えることができようか。  
他を愚かなる不浄のものであると説きつつ、



彼は自ら確執を招くであろう。  
「誤った」決定説に立って自らを測り、  
さらに彼は世間で諍論に至る。  
一切の「誤った」決定説を捨てるならば、  
人は世間で確執をなすことがない。  
(同書四十六〜四十七頁、『スッタニパータ』の引用より)

仏教の言う「中道」というのは、単に両極端の間をいくということではなく、あらゆるイデオロギーへの囚われから離れ、自由に変化していくことを説くものです。このような無我・空の持つ仏教的自己否定の知恵は、個人的な苦からの解放と自由をもたらずだけでなく、異なる思想や信仰を持つ者同士が平和な関係を築くためのヒントにもなりそうです。

複雑で根深い対立が世界中で起こっており、融和が困難に見える今だからこそ、変化していく世界と間違いを起す愚かな人間という厳しい現実認識に基づき、ブッダの普遍的で深い知恵に学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

【書店員 凱】

# 古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

## 【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多量、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌等は受け付けておりません

## 【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025  
Mail：clc@karashidane.or.jp

## 【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

## 【献本感謝】

宇治福音自由教会様、中村博子様、本多倫子様、深谷純一様、大兼久文子様、匿名様 (順不同)

10月の古書の収益は68,920円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思っております。匿名ご希望の方は、お知らせください。

ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

## 編集後記

◆今月の読書感想本は、なんと仏教を取り上げました。日本人にとって身近な仏教ですが、案外、日本人は仏教を知らないのではないのでしょうか？キリスト教徒が、仏教の始祖にまで遡ってブッダのものの考え方・道理・道筋から学ぶこともあるはず…。かく言う私の実家はもともと熱心な仏教の家庭でした。「クリスチャンになる前、私は仏教に助けられた。仏教は私にとっての旧約時代」と、祖母が話していたのを思い出します。【店長】

★「こどものための神のものがたり」は、いよいよ、次回12月号で終了となります。毎月、あたたかく励ましに満ちた文章を寄せてくださった大頭真一様と、書店だよりの印刷画質をもとめず果敢に挑戦してくださった森住ゆきさん、ありがとうございます。今月号の「クリスマス」も素晴らしいですね。天から落ちてきた一筋の光を、小さなおててをいっぱい広げて受けとめる、あかちゃんのイエスさま、人となられた神…。「クリスマスおめでとう おめでとう ぼくたち」

★「多くの読者に愛されてきたデポジション誌「マナ」も、とうとう12月号で休刊となります。こちらでも森住さんのちぎり絵が表紙を飾っていました。残念です。いのちのこぼ社から、おすすめのデポジション本が紹介されましたので、転載しました。ご入用の方は、お知らせください。

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね  
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス  
からしだね書店&カフェ・トライアングル  
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館  
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025  
書店メール [clc@karashidane.or.jp](mailto:clc@karashidane.or.jp)

CLCからしだね書店便りの  
バックナンバーはこちらから

